

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医療整備対策費

事業名 **新型コロナウイルス感染症後方支援病床確保事業費
補助金**

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療整備課 医療企画係 電話番号：058-272-1111(内3236)

E-mail：c11229@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 179,960 千円 (前年度予算額： 171,940 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	171,940	171,940	0	0	0	0	0	0	0
要求額	179,960	0	0	0	0	0	0	0	179,960
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

感染第7波では病床使用率は50%以上で推移し、病床が逼迫する状況となった。
今後の波に備え病床の逼迫を回避するため、退院基準を満たしても、基礎疾患などの治療が必要な患者の転院の受け入れを行う後方支援病床の確保に対する支援を行う必要がある。

(2) 事業内容

退院基準を満たした後、基礎疾患などで引き続き入院を要する場合の後方支援病床を確保するため、医療機関の空床補償経費を補助する。

(3) 県負担・補助率の考え方

○後方支援病床確保に係る経費
10,000 円/床・日 (県 10/10)

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	179,960	後方支援病床確保経費に対する補助金
合計	179,960	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第7期 岐阜県保医療計画 第3部 第2章 第12節2-1 「感染症対策」
- ・「第7波」感染急拡大継続への対応～岐阜県BA.5対策強化宣言～

(2) 国・他県の状況

退院基準を満たした患者を受け入れる医療機関へ支援金を支給している都道府県あり。

(3) 後年度の財政負担

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、引き続き支援を行う必要がある。

(4) 事業主体及びその妥当性

コロナ患者が必要な医療を適切に受けるためにはコロナ病床を最大限活用することが重要であり、円滑なコロナ病床活用のために県が医療機関の後方支援病床確保に対して支援を行うのは妥当である。

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	新型コロナウイルス感染症後方支援確保事業費補助金
補助事業者（団体）	新型コロナの退院基準を満たした後も引き続き治療が必要な患者を受け入れる「後方支援病床」を確保する県内医療機関 （理由）新型コロナの入院患者用の病床逼迫を避けるため、医療機関の後方支援病床確保に対する支援を行う必要がある。
補助事業の概要	（目的）新型コロナ後方支援病床の確保 （内容）後方支援病床の確保に係る経費を補助
補助率・補助単価等	定率 （内容）補助率10/10 （理由）二次救急医療提供体制の確保は市町村が行うものであるため
補助効果	後方支援病床を確保することで、コロナ患者入院病床の逼迫を回避する。
終期の設定	未設定

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか 新型コロナウイルス感染症の収束まで、病床逼迫の回避を図る。
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

補助金交付実績 (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度
		16,750	135,010

(これまでの取組内容と成果)

令和 2 年度	後方支援病床の確保によるコロナ病床逼迫の回避 指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和 3 年度	後方支援病床の確保によるコロナ病床逼迫の回避 指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	コロナ患者入院患者病床の逼迫を回避するため必要な事業である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価) 2	後方支援病床の確保により、コロナ病床における入院患者の循環が促進される。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	感染拡大状況を勘案し、必要な病床数の確保を図っていく。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 終期到来時の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて検討。
